

ユネスコ世界文化遺産登録 (2013.6.22)

霊峰・富士登山の旅

…… 日本最高峰「剣ヶ峰」にたつ ……

2013年8月25日(日)夜出発。東北道から圏央道、河口湖へ
 8月26日(月)富士山五合目から登山開始。七合目(泊)
 8月27日(火)七合目から山頂。富士山外輪巡り。七合目(泊)
 8月28日(水)七合目から五合目下山。温泉で汗を流し帰郷。
 大和工営一等三角点の会(山形県新庄市)

前編

夢の実現へ

はじめに 私(筆者)が本格的に「山登り」を始めたのは22歳からと記憶している。そして日本一高い**富士山は一番最後に登ろうと**大切にとっておいた。30代半ばに転職し、現在の測量会社で働き始めて以来、「山登り」とは疎遠になった。もっぱら測量のための三角点を探しに山を登ったり、国道344号の道路改良のため北青沢の山岳地帯での測量や、真室川町の秋山放牧場建設のための地形測量(等高線求める測量)などで里山を駆け巡った。もともと「山登り」が好きだったので、そんな日々が仕事なのか趣味なのか混同してしまう程であった。年を重ね、現場に出る機会も少なくなった。華の60歳代を前に、(酒田港での夜釣りの明け方に)思い出したように単独で月山への「山登り」に向かった。登山というものから30年近く遠ざかっていたが、その爽快感に「まだまだ、いける!？」と体感した。



祝富士山世界文化遺産

鮭川村上大淵

私達は、山形県の一等三角点(21点)の「山登り」に的を絞っているが、今回は日本一の山である「富士山」に登ることを提案し、ゲスト2名を含め5名で富士登山遠征隊結成となった。一番最後に富士山に登ろうと思っていたのは私だけで、外の4人は最近山登りを始めたばかりで、**最初の「山登り」が富士山**となった。折しも6月22日には富士山がユネスコ「世界文化遺産」に登録された。その世界遺産となった富士山への山登りとなる事も併せ、**夢の実現に期待と不安**とで心が昂ぶった。

私達は、山形県の一等三角点(21点)の「山登り」に的を絞っているが、今回は日本一の山である「富士山」に登ることを提案し、ゲスト2名を含め5名で富士登山遠征隊結成となった。一番最後に富士山に登ろうと思っていたのは私だけで、外の4人は最近山登りを始めたばかりで、**最初の「山登り」が富士山**となった。折しも6月22日には富士山がユネスコ「世界文化遺産」に登録された。その世界遺産となった富士山への山登りとなる事も併せ、**夢の実現に期待と不安**とで心が昂ぶった。

富士登山…その未知との遭遇？

ご存知のように、富士山は標高3776mで日本国内の最高峰である。**気温も麓の富士吉田より20度は低く**。また高山であるため強風も容易に予想される。仮に風速10mの風があったら**体感温度はマイナス10度**ということになる。加えて**山頂の気圧は平地の約60%と云う薄さ**であり、「高山病」に対する対処も必要になってくる。

次の問題は「いつ登るか？」である。**(今でしょ!。とはいかない。)**県内の測量会社は7月の豪雨による災害復旧のため、多忙極まりない日々を送っていた。果たして休暇は取れるのか。

また世界遺産登録による入山者増の規制もあり、登山者が最も多い河口湖口では8月25日Pm5:00まで一般の車を入れない「マイカー規制」が行われている。その規制が解除になったとしても週末の混雑は相当なものであり、登山基地となる河口湖口五合目駐車場への待ち時間が4、5時間というのは当たり前だという。**残るは登山中の天候**である。8月下旬から9月初旬は台風の襲来も考えなくてはならない。7、8回富士山に登ったという方から「一度も御来光を見たことがない。」という話を聞いた事がある。**夢を語るのは楽しいが、夢の実現には厳しい課題が山積**していた。

いつ登るか ・ ・ 富士登山の構想は2、3年前から具体化して煮詰めていた。今年の年度初めには社長をはじめ、周りの職場の人に「**今年は富士山に登る。**」と吹聴して廻った。

実際にいつ登れるかを検討した。「マイカー規制」の期間を避けること。「新庄まつり」や「尾花沢まつり」の時期は休暇が取りやすいかも。週末の混雑を避け、平日にすること。などなど・・・。

結果的に「マイカー規制」が終了する翌朝に河口湖に着くように8月25日(日)夜出発し、8月28日(水)夜に会社に戻る日程で富士登山を行う事にした。7月下旬のことである。多忙の中、職場の同僚には少なからず迷惑が及ぶことになる。しかし、**いま行動を起こさなかったら「夢の実現」は水の泡**と消えてしまったに違いない。(仕事と趣味。大切なのはどっち!? なんて質問しないこと。)

高山病対策は ・ ・ 河口湖口五合目と云えども標高は2305mに達する。すでに山形県の最高峰である鳥海山(2236m)を凌ぐ標高である。その鳥海山でさえ昨年(2012年)の夏山登山では2名(45歳と61歳の女性)の方が「**高山病**」で県警のヘリコプターで救助搬送されている。富士山頂は五合目から1471mの天空に聳え上がっている。五合目駐車場に早朝についたら昼まで休養し、それから登山を始める。八合目の山小屋の予約が取れなかったため、七合目に泊り、翌日山頂を目指して登る。体を高度順応させるために、**とにかくゆっくり登ることが**大事なことである。立ち止まった時に口を細く尖らせて深呼吸し、より多くの酸素を摂ることも効果があるらしい。

登山の行程は ・ ・ 8月25日、新庄をPm9:00に出発し、河口湖に翌26日の朝に到着し、そのまま五合目登山口まで車で行く。身体を高度に順応させて、昼から登り始めて七合目の山小屋に宿泊する。27日は山頂に登り、外輪をまわり(お鉢まわり)をして下山する。そして同じ山小屋に宿泊する。七合目から五合目駐車場までは2時間ほどで下山できるが、また**高速道路を夜間走行**することを考えると、**七合目に連泊し、翌日はゆっくり下山して新庄に帰る行程がベスト**と考えた。富士山の七合目と云っても標高2700mあり、日常生活ではめったに入り込めない空間である。

天候は どのなの ・ ・ 常々、**天候が悪かったら登山を中止**した方がいい。との持論がある。何も展望が効かない山だったら、どこを登っても同じじゃないか。という極論も出てくる。

富士山という名前の山頂は無いんだから、五合目であろうが七合目であろうが、立派な富士山に変わりはない。**悪天候の場合は山頂には登らない**事もあり得る。と云うことを参加者に伝えた。あとは天候に恵まれる事を願うのみである。昔、誰かが「運がいいのも、実力のうち。」と言っていたが天候だけはどうにもならない。仮に悪天候に遭遇したら、それに**適切に対処する勇気も必要**となる。今回の登山計画書の一文には次のことを決意表明として記載した。

私達が今回計画している富士登山の目的は、日本最高峰の山頂に、是が非でも登る事ではなく、安全に非日常的な空間を、五体満足な身体で体験し、無事に日常生活の空間に帰還することにある。条件が整わなければ即時撤退(下山)する決断を、私達は最優先に準備している。一度立案した計画の実践、それは自らの人生の一コマとの遭遇である。登山は勿論、移動手段(交通安全)には万全を期してこの計画を実践したい。

すべては自然界(とりわけ天候)の厳しい条件と、参加者の体調にかかっている。

2013年8月10日

大和工営一等三角点の会

新庄まつり本番の日・・・

24 時間テレビの映像・・・

例年 8 月 24 日～26 日は新庄まつりで賑わう。25 日の昼に祭りの宴に招かれた。茶の間のテレビは「24 時間テレビ」のチャンネルになっていた。その番組のコーナーでは、**福島の被災地の子供達と一緒に世界遺産に登録された富士山頂に登る**というのが放映されていた。

しかし、その映像は楽しそうではなく、**悪天候を押しての登山中継**であった。明日の朝には富士山五合目に到着予定である。天候は回復傾向にあるというが、急に心配になる。



「世界遺産登録」を報ずる記事 2013.5.19 付山形新聞

富士山への道のり・・・

新庄から 550km の行程

当日は夜 9:00 に出発する予定にし、会社には 8:00 に集合した。ザックを業務室に持ち込んで、装備や持ち物の確認と個々のザックの重さの調整をした。**富士山までの道のりは凡そ 550 km**ある。5 名で出かけるため車 2 台 (A 車、B 車) に分乗し、運転は 2 時間を目途に交替することにした。山行のために 1 時間前に集合と云うのは私達にとっては珍しいことだが、それでも出発時刻は Pm9:00 を少し廻っていた。

新庄から河口湖へ・・・

夜間走行・・・

会社を出発してから 1 時間程で山形道の山形北 IC で高速道に入った。夜間走行となった。その分、先行する車輛は少ない。時々追いついていく車がまばらに走り去った。

村田 JCT から東北道に入る。**夜の高速道路は物流を支える大型トラックが多く**、先を急いで追いついていく。2 時間程度を目安に運転を交替しながら東北道久喜白岡 JCT から圏央道に向かう。圏央道は未だ全線開通しておらず、2、3 分で白岡菖蒲 IC から一般道に下りた。再び圏央道にあがるべく「桶川北 IC」の案内板を探しながら走行した。が、見落としがたく、次の「川島 IC」で圏央道に乗った。東の空が少し明るくなってきた。ここからは高速道路のみで、八王子 JCT から中央自動車道へと乗り継いで行った。途中、**天井板崩落事故のあった笹子トンネル通過時には緊張**した。

富士の全容が・・・

談合坂 IC で休憩し、大月 JCT から河口湖 IC へ向かうの高速道路の前方に**突如として富士山の全容が現れた**。夜間走行の末に目指す富士山を目の当りにした。その迫力にハンドルを握る手に思わず力が入る。**その瞬間から私達の夢の実現のため、夜間走行までして来た「富士登山」の幕が静かに開けられた**。



青い空と白い雲、その奥に富士山が現れる

河口湖から五合目登山口へ・・・

車は富士山ナンバーです・・・

河口湖 IC に近づく程に迫力のある富士の姿が視界に飛び込んでくる。河口湖 IC を下りて富士スバルラインに入る筈が見落とし、迂回して引き返す。地元の車のナンバーは富士山一色で、時折山梨ナンバーを見かける。（変に感動!!）

メロディロードで歓迎・・・

改めて富士スバルラインの道路に入った。昨夕までのマイカー規制を知らせる看板が道路脇に賑やかに林立してあった。料金所を通過し、五合目に向かって走行した。すると、森閑とした樹林帯に何かの音が響く。よく耳を凝らして聞いてみると、それは路面と車のタイヤの摩擦音によるメロディが奏でられていたのである。そう、あの富士山の歌である。

・・・あたまを雲の、上にだし・・・ “・・・富士はにっぽんいちの山” ・・・

それは昔なつかしい童謡の一節である。「童心であったあの頃を思い出して欲しい」というメッセージにも感じ取った。そのメロディロードによる歓迎を受け、夜間走行した身体と心が癒やされた。

五合目の登山基地へ・・・

山岳道路の富士スバルラインを進んでいくと、2合目の看板、3合目の看板が目の前を次々と通り過ぎて行く。道路脇の木立の中はまるで竹藪で砂浜を掃いたように、隅々まで手入れがされていた。もちろんポイ捨てのゴミ等微塵もない。「ゴミの山」返上の意気込みを感じ取った。

大沢駐車場（四合目下）でトイレ休憩をする。五合目駐車場を目前にして、駐車場待ちの車列の最後部に並ぶ事となった。でも1時間の待ち時間で、Am9:00 に五合目駐車場に到着した。



パトカーも 富士山ナンバー 23 (フジサン)



山中湖

四合目下 (2020m) でも 十分高度感がある



五合目駐車場は 常時満車です・・・

五合目は一大観光地

富士山は年間 300 万人が訪れ、そのうち 32 万人が山頂に登る登山者であると云われている。世界文化遺産登録を受けて地元自治体では観光客の大幅増加に、嬉しい悲鳴をあげているらしい。

駐車場に到着後朝食を摂り、五合目の観光地を散策する。観光客は外国人が多く、特に中国人の姿が目立った。五合目にして標高 2305m。車で簡単に登れて、高山の雰囲気たかやまに浸ることが出来る。ひた車に戻り身支度を済ませて、登山口に移動する。



山梨県五合目総合管理センター前



観光客でにぎわうバスターミナル



待ち時間が長い「人気の撮影スポット」です



五合目から六合目 (標準で 0:45)

五合目から ドラマが始まる…

観光客の間を縫^ぬって、河口湖五合目登山口に集合した。いよいよ富士山頂に続く登山道に足を踏み入れる。数十センチの歩幅の積み重ねで、日本の富士山頂を目指して歩き出すこととなった。

8/26の行程は標準タイムで1:45登った七合目「トモエ館」に宿泊することになっている。

出発時刻はAm11:05。時間はたっぷりある。出来るだけ「ゆっくり」登ることにした。

泉ヶ滝へはゆるい下りがつづく

五合目から泉ヶ滝への登山道はゆるやかな下りになる。天候は濃霧^{ガス}がかかり見通しは効かない。が、風は無風状態である。多くの登山者に混じって歩き出した。下りの登山道を快適に進むと濃霧^{ガス}の中から下山の集団が現れ、そしてすれ違った。



五合目登山口で 最初の証拠写真



ほかの登山者集団と歩き出した・・・



ガスが出ている分、真夏なのに涼しい登山道

泉ヶ滝



(休憩はしないが、写真は撮っておこっ・と)



泉瀧の柱石

濃霧の中から、下山の集団が現れた

泉ヶ滝には15分で到着した。「泉瀧」と刻まれた柱石^{うも}が地面に半分ほど埋れていた。清水の湧くような岩場は潤っていて、「滝」を連想するものは見あたらない。まだ休憩する程でもない。ほかの登山者と共に、**ここから山頂まで続く登り**の第一歩目を山肌に刻む。

泉ヶ滝から六合目

泉ヶ滝分岐から真っ直ぐ進むと吉田口登山道に至るが、私達は右手の登山道へと進んだ。緩やかな登りになるが、他の登山者にもまだ勢いがある。富士登山の玄関口になる事もあり、登山道の道幅は広い。**砂礫から露岩になったところを登り切って呼吸を整えた。**更に進むと「山梨県富士山安全指導センター」前では、下山ルート告知のチラシ配布がされていた。



砂礫の登山道を歩む、道幅がケッコウ広い・・・



露岩の山道を快調に登り始める・・・



岩場の登山道を登り終えた処で小休止・・・



山梨県 富士山安全指導センター



六合目の指導標もガス（濃霧）のなかに・・・



六合目

全員が入る筈の写真がァ・ごめん ダイスケ・・・

ツアーガイド 六合目に到着した。近くからツアーガイドの声が静寂な山肌に響く。「何か臭いませんか。トイレの汚物を焼却してるんです。環境上問題なので、今度環境省の方に言っておきたい。」と言う。するとワガツマが「何言ってるの、自分達がしたウンコでしょ!!」と吐き捨てた。

六合目から七合目 (標準で 1:00)

登山道を護る巨大擁壁^{まも}・・・ 六合目

で休息し、本日の宿泊地である七合目の山小屋目指して登り出す。濃霧^{ガス}のため山の全容は確認できないが、山頂まで続くツヅラ坂を直登する事になる。巨大擁壁^{カベ}が登山道に沿って山頂へと延びている。そうしないと登山道は悉く破壊^{ことごとく}されてしまう。まさに日本一険しく、日本一厳しい山道^{やまみち}である



六合目の案内板が、富士山頂を指し示している・・・



富士登山の団体客が濃霧の中に消えて行く・・・



団体客の間に挟まれ私達「登頂隊」も前進する・・・



ガイドの威勢のいい声が山肌に響く、がァ・・・



濃霧の登山道を無言のまま登るツアー客の一团



巨大な擁壁が登山者と登山道を護っている・・・

団体ツアー登山・・・ 年間 32 万人と云われる富士登山者の大半が旅行会社企画による団体ツアー客であるようだ。ツアーガイドだけが威勢が良く、終始無言で、辛そうな顔をして登っている人が隣にいても、声すら掛け合わない様子。決死隊でもあろうに不気味な集団にも見えた。

山小屋が目前に・・・濃霧の中を黙々と登ること約1時間。周囲の濃霧が薄れて、ついにその山肌を仰ぎ見る事となった。天空に延びる登山道が霧の中から浮かび上がってきた。やがて吹き渡る風が濃霧を消し去り、登山道沿いに点在する山小屋を見上げた。吉田ルートには**六合目から山頂までの区間に、14の山小屋**がある。最初が「花小屋」で次が「日の出館」そして宿泊予定の「七合目トモ工館」も間近に眺める事が出来た。



一瞬の濃霧が消え去った 天空を見上げる



最初の山小屋「花小屋」下で一息ついて・・・



砂礫から岩場となった登山道を慎重にのぼる



二つ目の山小屋「日の出館」前のイスに座り・・・



「花小屋」の屋根には無数の岩が載せてある

登ってきた登山道を見下ろす・・・



目的の山小屋のテラスには登山者の群れが・・・

今宵の宿となる「七合目トモ工館」

夢の「ど真ん中」・・・ 目標が見えると気持ちも、足も軽くなる。時間はたっぷりある。私達は今、夢の「ど真ん中」を歩いている。「日の出館」の前で休憩をとる。視界はどんどん開けていく。登ってきた道を見下ろす。天候は確実に回復してきている。見下ろす先から登山者の群が幾重にも湧いて現れる。踵を返し、本日最後となる急坂の岩場の登りに向かう。気分は実に爽快である。

天空の宿「七合目トモ工館」

山小屋の賑わい

Pm2:10 に今宵の

天空の宿「七合目トモ工館」に辿り着いた。五合目を Am11:05 に出発してから 3:05 (標準タイムは 1:45) を要した事になる。山小屋の前は多くの登山者でごった返していた。そのお目当ては八合目の山小屋に泊まり、翌日の早朝に山頂に登り、御来光を仰ぎ見ることらしい。そうした一泊二日のプランが一般的で、「富士登山ツアー」の人気「商品」であるらしい。が、**決められた時間に、決められた場所に移動しなければならない。ツアーガイドとツアー客が抱える宿命に少しは同情もできる。**富士の山懐に二泊する私達には贅沢な程の時間がある。



個室あります!?! 山小屋はぐっすり寝て、疲れを取るためにある。と思ったら、大間違いである。満室の時は畳一枚に2人寝るだけのスペースが普通である。今宵の宿の案内にも寝床の幅が30cmから45cmになったとの記載があった。しかし、山小屋の前に着いたら **個室あります** の文字が飛び込んで来た。

新庄からの夜間走行の時に、スガノが呟いた「**自分はイビキがひどいから**」と心配していた事を思い出し迷わず個室での連泊を決めた。(1000円の割増)



山小屋の夜は、ランプかな??

早速「個室」なる場所に案内された。2階の奥まった処に進みドアを開けると、そこが今宵のネグラである。その室内は12名分のフトンが敷かれていた。

山小屋の夜はランプか懐中電灯かと思ったが、今は**発電機により電灯がとり、コンセントもある。**



富士山に、乾杯!!

手元の高度計は2800mを示している。この地点で東北地方で一番高い福島県南会津の燧ヶ岳(2356m)を凌ぐ標高である。まだ時刻はPm2:30。初めての富士登山で、とうとう七合目まで来た。この興奮に酔いしれるべく、高値のビールを片手に持ち、**私達を迎え入れてくれた富士山に乾杯**した。

天候さえ良かったら、明日は確実に山頂に立つ事となる。**夢が現実となる山小屋の夜を迎える。**



山小屋周辺の散策・・・ 山小屋の夕食

はPm4:00である。小屋の外に出て散策する。登って来た時の濃霧は消えて、視界が広がっていた。少し登って山小屋を見下ろす。思わず**天空の宿と**
領き、この天空の絶景に立会うことが出来た。



何処かのテレビ局(?)のロケ隊も出現・・・

ワタシ、登らない・・・ 夕食の時刻が

迫り、山小屋のなかに入る時、ワガツマが「**私、登らない。**」と言う。どうやら、体調が優れないらしい。彼女は3週間程前に登った月山(1984m)が初めての登山である。自分の体調を考慮し、そう決めてくれた事がむしろ有り難かった。「ウン、わかった。」と返事した。すると彼女は「**でも私、後で登るからネ**」と言葉を返してきた。

山小屋の食事・・・ 山小屋の食事のメ

ニューは、「七合目トモエ館」の場合は、夕食が「ハンバーグカレー」、朝食は「助六(すし)弁当」である。朝食は夕食と同時に配布される。そのメニューはシーズン通して同じらしく、連泊する私達には、「**同じ食事じゃ、イヤだろうから、明日の夕食は牛丼にしてあげましょうか?**」との申し出があった。

ハンバーグカレーの味は・・・

ほどなくして、「**食事の準備、できましたよォ~**」との声が聞こえてきた。入口の特設食堂に下りて、富士山での夕食をいただくことにした。



山中湖

今宵の宿の全景。まさに天空の宿である・・・



山小屋前の長椅子は常に満席・・・



半ズボンで登る強者もいて・・・

更に上の小屋を目指して、岩場を登る・・・



食事の準備、できましたよォ~・・・

スタミナ補給は、ばっちりと・・・

「山男」の夕餉^{ゆうげ}の食卓に、お茶は似合わない。あすは富士山頂を目指すに相応しいスタミナ補給が必要とばかりに、再度「乾杯!!」の声を発していた。富士山の冷水でキンキンになったエネルギー源の味は格別である。

個室に戻ってからも、明日の山頂への登山のことで話が盛り上がる。



夕食と朝食が並ぶが、何か足りない・・・



至福の時、酔うほどに話が弾む・・・



なんと言っても、エネルギー源でしょう・・・



特設食堂が、利用者で賑わう

静かにして くれませんか !!・・・ 突然、「トントン」と音がしてすぐドアが開いた。「静かにしてくれませんか!! 私達、今夜 11:00 に出発するんだから!!」との抗議である。嗚然^{あぜん}としてる間に、そのドアは閉められた。時刻が Pm6:30 頃の事である。

改めて、自分達がどういう環境下の場所にいるのかを思い知った。



トイレの利用は 200 円・・・

チャンスは もう一度ある!?!・・・

翌朝、憧^{あこが}れの御来光を期待し Am4:00 過ぎに外にでた。眼下には富士吉田の街明かりが見える。「もしかして御来光が見られるかも」との期待が膨らむ。が、夜が明けてくる程に麓^{ふもと}から濃霧^{ガス}が湧上がって来た。残念!!。でも連泊する私達にはもう一度チャンスがある!?!。

後編につづく・・・



御来光を期待し、ジ～ットその瞬間を待つも・・・